

題名 福地ダム親水水路を活用したリュウキュウアユ定着の試み

北部ダム統合管理事務所 広域水管理課長 なかぞのこうき
◎中園幸樹
環境係長 ひせともやす ○備瀬知康

1. 目的

北部ダム統合管理事務所では、現在沖縄本島北部地域において8つのダムを管理している。リュウキュウアユについては、1978年に採取されたのを最後に沖縄本島では絶滅したとされ、その後「ダム事業に係る生物調査委員会」におけるダム湖への陸封化についての提言を受け、1992年にアユの生息環境条件が適しているとされた福地ダムにおいて、県外より入手した稚魚を流入河川への放流を行った。

初めての放流から20年間にわたり継続して福地ダム流入河川においてリュウキュウアユの生息が確認されていることから、陸封化は成功したと判断されるが、下流河川へは未だ定着していないため、川の形態や環境などの様々な学習ができる疑似体験施設として設置された「福地ダム親水水路」において、リュウキュウアユの産卵と仔魚供給が可能か試みについて報告する。

2. 内容

(1) 親水水路での産卵を促すための工夫について

- ・リュウキュウアユの生息場・産卵場となる「瀬」及び休息場所となる「淵」を配置
- ・河床材を固定せず、目的に応じて流れを自由に変えられるように工夫
- ・産卵床（面積1m×1m程度）として、淵上流部に小砂利を敷き水深10cm程度を確認
- ・餌環境（藻類の生育基盤）として、250mm内外の雑石約500個を水路内全区間に配置

(2) 福地ダム陸封アユを採取し親水水路へ放流について

- ・福地ダム流入河川のうちハラマタ川からリュウキュウアユ100個体を採取
 第1回目 平成24年11月21日 55個体を採取・放流
 第2回目 平成25年 1月11日 45個体を採取・放流
- ・リュウキュウアユの採取に関しては、沖縄県内水面漁場管理委員会より許可を取得した上で実施

3. 結論

放流後の追跡調査について

- ・親水水路へ放流した100個体の内、平成25年1月末時点で約70個体を確認
- ・親水水路は、リュウキュウアユの生息・産卵に適した環境を維持
- ・放流約2ヶ月後に親水水路内で産着卵を確認
- ・親水水路と福地川との合流点で孵化仔魚を採集

4. 今後の問題点

今回の放流により産卵及び流下仔魚は現地において確認できたが、最終的にはダム下流河川や周辺河川へ稚魚が遡上し、生息・産卵・孵化が目標であり、目標を達成するためには、河川管理者等と連携したリュウキュウアユが生息する川づくりを推進するとともに、国管理ダムでは流況改善による河川環境の維持や改善の調査検討を行う必要がある。